

令和7年度 山梨県立韮崎高等学校 第2回学校運営協議会 会議録

<出席委員>

同窓会副会長	岩下 和彦（会長）	定時制P E T A会長	上野 政巳
山梨県立大学客員教授	輿水 達司	地元企業役員	山田 七穂
本校元校長	赤岡 正毅	校長	小笠原 宏
教務主任	窪田 幸彦		

<出席職員>

教頭（全日制）	大木 賢一	教頭（定時制）	吉川 仁
事務長	小林 芳昭	生徒指導主事（全日制）	小泉 圭二
生徒指導主事（定時制）	成島 裕明		

<欠席委員>

韮崎市若宮自治会会長	横山美和子	令和7年度P T A会長	福井 太一
韮崎市財務政策課課長	根津 昭彦	韮崎市立韮崎東中学校校長	萩原 長人
NPO法人子育て支援センター ちびっこはうす理事長	内藤 香織		

1 日時 令和7年10月24日（金） 14：15～16：30

2 場所 山梨県立韮崎高等学校 視聴覚室

3 次第 （1）授業参観 14：20～14：45（定時制）

14：50～15：15（全日制）

（2）会議要旨 【進行：全日制教頭、記録：定時制教頭】 15：20～16：30

① はじめの言葉（全日制教頭）

② 学校長挨拶

【議長：会長】

③ 学校概況について（全・定）

全日制（教頭）全日制学校概況（資料P1～P4）について説明

定時制（教頭）定時制学校概況（資料P5～P7）について説明

④ 学校評価アンケート項目について（全・定）

全日制（教頭）全日制学校評価アンケート項目（案）（資料P8～P10）について説明

定時制（教頭）定時制学校評価アンケート項目（案）（資料P11～P12）について説明

⑤ 質疑応答・意見交換

（委員）中学校教員対象学校説明会は何校参加したか。

全日制（教務主任）20数校、峡北地区、甲斐市の中学校が多いが、中巨摩や他県の中学校も参加をした。

（委員）伝統ある強歩大会は、何事にも代え難い達成感がある。今後も継続するため、課題にどのように対応するか取り組みを教えてください。

（校長）道路状況の変化により、交通量が増大するなど危険箇所が増えている。今年度は200人程度の保護者に協力いただき安全確保に努めた。コース近隣の住民からも様々な要望がある。今後も人手の確保に努めていきたい。

（委員）同窓会の当番幹事など、卒業生に協力を依頼することもよいのではないか。

（委員）先日発表された中学3年生の第1次進路希望調査では、昨年度の定員ベースで本校希望者は30人程度超過しているが、私立高校の授業無償化による影響は

あるか。

(校長) 今年度はそれほど大きな影響はないと思われる。生徒募集に関しては、本校の特徴である文武両道できる環境をアピールしていきたい。

(委員) その進路希望調査で本校の定時制希望者は4人であった。通信制を希望する生徒が増加している現況の中で、学校としても生徒募集の努力をしていることは理解ができる。定時制もオープンスクールは実施しているか。

定時制 (教頭) 定時制は全体では実施をしていないが、個別の学校見学・説明を随時受け入れている。

(委員) 定時制や通信制について、詳しい委員の方がいるので様子を聞くとよい。

(委員) 私は「不登校の親の会」を主催している。市の教育委員会もこの4月から「スペシャルサポートルーム」を創設して不登校の子供たちのケアをしている。ここで子供たちが学校へ戻るための準備をしたりエネルギーを充電したりするのだが、私立通信制の高校の中には、この部分にかなり積極的に取り組んでいる学校もある。本校の定時制も、このような地域の教育課題に対応できるような仕組みがあるとよいと考える。

(委員) 定時制の授業参観もさせていただいたが、明るい雰囲気の中で授業に集中し、伸び伸びとしており人間関係もよさそうだった。生徒数が進級するにつれ、少なくなってきたが、中途退学者等はいるか。

定時制 (教頭) 4年生は併修の制度を利用して3年で卒業する生徒がいるので人数は減っている。昨年、一昨年で若干名の中途退学者が出てしまったが、今年度は、現在まで中途退学者は0名である。

(委員) 定時制は、とてもよい学習環境を提供しているように思う。現在、定時制と全日制の校舎が分かれているが、定時制の教室も本館に移して、全日制の生徒と交流ができるとよいのではないか。また、生徒数が少ないことをメリットとして、懇談等の機会を増やしたらどうか。

(校長) 私も蕤葉祭などで定時制の温かい雰囲気は感じている。ただ、定時制の生徒の中には、中学校時代不登校であったり、集団が苦手な生徒も多い。現在の定時制の校舎での学びが、少人数だからこそ一人一人の居場所が確保でき、彼らにとっては居心地のよい場所になっている面もある。そのため、交流については慎重に検討する必要があると考える。懇談に関しては、二者懇談と合わせて年3回実施をしているが、人数が少ない分1人について時間をかけることができている。

(委員) 定時制で外国籍の生徒が増えているということで、言葉の壁があるということだが、三者懇談等はどのように行っているか。

定時制 (教頭) 外国籍の家庭であっても生徒は日本語で会話ができるが、保護者が日本語でのやりとりが難しい家庭がある。その場合には、外部の通訳の方に依頼をしたり翻訳ソフト等を利用したりして実施している。

(委員) 今後も外国籍の生徒や家庭と丁寧に対応をお願いしたい。先日、他校の専門コースが東大の見学に行った際、外国人の多さに驚いたということ聞いた。グローバル化がさらに進展する社会において、本校の定時制が外国籍の生徒の受け入れを積極的に行うこともよいことだと考える。

(委員) 定時制の生徒が大人しくなったと感じる。以前は正門を利用して登下校する生徒もいたが、現在は全員西門からということで、少し寂しさを感じる。また、通信

制の高校が増えており、今まで定時制に通っていた生徒が通信制へ流れている。それは、毎日登校しなくてもよいことも大きい。しかし、様々な境遇にある生徒たちが毎日登校して共に学び合う定時制の存在は、とても重要で成長過程でのメリットは大きい。しかし、そのことについて、中学校の先生方を含め一般の方の理解が不足しているのではないかと感じる。情報発信、提供が必要である。

別件だが、全日制定時制校舎ともに掃除が行き届いていると感じた。先生方のご指導に感謝する。

(委員) 定時制の情報が少ないと感じる。学校案内パンフレットやホームページで、もっと発信をお願いしたい。また、全日制では国際交流が行われているようだが、今後さらに活性化することが重要だと考える。現在、どのような交流が行われているのか。

(校長) 今年度3月、姉妹校提携を結んでいるオーストラリアのクロナラ高校へ生徒を派遣する予定である。昨年度はクロナラ高校から本校へ来ていただいた。コロナ禍で5年ほど中断をしていたがようやく復活することができた。

(委員) その際の費用は全額保護者負担か。家庭の経済的負担も大きくなるが、費用の補助等を行う支援体制はあるか。

(校長) 補助をすることはなかなか難しいのが現状である。

(委員) 今年度のクロナラ校への交流希望者は何人か。

(校長) 今年度、説明会に27～8人出席し、最終的に参加者は18人となった。

(委員) 定時制の社会に出る生徒たちに、地元社会で活躍している方々の話を聞く機会を設けていただきたい。

(委員) 私立通信制高校への評価が様々あるようだが、とても頑張っている学校がある。生徒一人一人のニーズに応じて、カリキュラムを組んだり学び方を選択できたりする学校もあるので、実際に目で見て確かめることも重要である。

⑥ 第3回学校運営協議会日程について

全日制(教頭) 令和8年2月12日(木) 15:00からを予定している。

⑦ その他(第1回学校運営協議会議事録)

定時制(教頭) 議事録(資料P13～P16)について説明

⑧ おわりの言葉(全日制教頭)